

岩城康一郎

(明政一心会)

医療と健康を育む観光のまち「標榜」を

質問 がん治療にPET画像診断機器導入の考えは。

また、これらと観光をセ

トにして、海外へ事業P

Rを展開してはどうか。

あえて「標榜」とした思

いは、「標」は旗印であり正義を語る。また、意見を人

前に表す看板である。「望」

は望むことができるならば

そうあってほしい、望むよ

うな最高の陣容ということ

から表現したものである。

答弁 当該装置は約一億

五千万円と高額機器である

が、従来の診断装置では見

えないがんの治療や放射線

治療の効果がきちんと評価

できるという点で、がん治

療として最適な組み合わせ

である。病院の特色として

が、病院の経営の方向性

が見えた時点で検討したい。

当院は高度検査機器での検査や、健診、脳ドックを行なうとともに、トモセラピーによるがん治療を行つて

建設の計画はない。



中心市街地への市営住宅建設について

質問 市営住宅を中心市街地への考えは。

答弁 町なかに居住促進策として公営住宅を建設することによって、都市機能が集中している地域に居住を増加

して位置づけ、農業者の経営安定と国内生産力の確保を図る重要な政策であるため、生産者の期待は大きい。

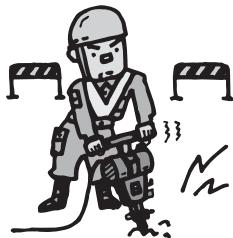
この戸別所得補償モデル対策の交付申請状況はどのようになつているのか。

のように考へているのか。

答弁 当該路線の歩道は幅一メートル程度で狭く、通勤、通学時間帯には車両の往来が激しいことや、側溝のふたに凸凹があるなど非常に歩きにくいため、通行に不安や危険を感じる人が多い。

市では、管理者である県に対して、早急に歩道の拡幅整備をするよう要望して

いきたい。



今泉勝博

(市政・市民クラブ)

戸別所得補償制度について

質問 国で今年度から導入している戸別所得補償制度は、新たな食料、農業、

度は、新たに食料、農業、

農村基本計画を大きな柱と

して位置づけ、農業者の経営安定と国内生産力の確保を図る重要な政策であるため、生産者の期待は大きい。

この戸別所得補償モデル対策の交付申請状況はどのようになつているのか。

答弁 本年六月三十日までに加入申請があつた市内の経営体は三千百四十八で、このうち十一月十五日現在で二千九百一、八九・三%非常に歩きにくいため、通行に不安や危険を感じる人が多い。

市では、管理者である県

に対して、早急に歩道の拡幅整備をするよう要望して

いきたい。

田中重光

(市民・共動クラブ)

国道四号の整備について

質問 国道四号洞内地区にある老健施設入口を挟んで急な坂道は、冬期間は雪による車のスリップ事故や渋滞が懸念されるが、ロードヒーティング等の設置を希望をこれまで国、県に出したことがあるか。

答弁 洞内北側の険しい坂道は、冬期間は特に安全走行に支障となる危険箇所である。これまでロードヒーティング等の設置要望はしたことはないが、除雪及び凍結防止剤散布だけでなく、ロードヒーティング整備などを含め、冬道の維持管理の向上を国に要望して

いきたい。

経費の負担増になることは間違いない。この発端は中央病院での分娩停止が原因のため当然市側で負担すべきと思うが、この対応をどうするつもりなのか。

答弁 十月に県南地域周産期医療連絡会議が開催され、上十三地域の妊婦受け入れの連携確認が行われ、八戸市、青森市の産科施設から受け入れの協力が得られることになった。

十一月の上十三地域周産期医療確保に関する市町村連絡会議にて、市外の医療機関に通院せざるを得ない場合の費用負担のあり方等についても協議される予定となつていて。それをもとに、県の対応策、近隣市町村の状況、当病院の動向等を見極め、今後の対応を検討していきたい。

今後の産科医療について

質問 十和田地区医師会議にて、中央病院と七戸町の民間産科医院が分娩を取り扱わないことが報告されたが、その内容は。

これによつて、市内の妊婦の多くは他市町へ通院することになると思われるが、この経済状況の厳しい中、

開について、年度末までの可能性は何%くらいになるか。

質問 中央病院の産科再開について、年度末までの可能性は何%くらいになるか。

答弁 上十三圏域の周産期医療の確保は緊急の課題であり、県、市、病院が一体となつて積極的に取り組み、年度内に産科が再開できるよう鋭意努力したい。